

講義名	心理学研究法			授業形態	
担当教員	福田 哲也	開講期・曜日・時限	前期 木曜日 3時限		
		単位数	2	履修開始年次	2年生

### 主題と概要

心理学は実証科学の一分野であり、データの収集や解析を伴う研究を行いながら発展してきた。そのため実証研究の実施は、心理学において必須である。ただしそのような研究を行うためには、科学における実証研究の考え方、実験計画の考え方、様々な研究方法の特徴を理解することが必要となる。加えて、収集したデータの扱いも事前に計画しておく必要があるため、その解析方法を理解しておくことも求められる。そこで本授業では、心理学の研究を実施するために必要な知識、代表的な研究方法の特徴、データの解析方法について概観する。

### 到達目標

実証研究の考え方について説明できる。  
 実験法・調査法・観察法・面接法それぞれの特徴を説明できる。  
 収集したデータの扱い方について説明できる。  
 人を対象とした研究を実施する上で配慮すべき点を説明できる。

### 提出課題

・授業2回目以降、各回で前授業回の内容について確認テストを行う。  
 ・各授業回では、リアクションペーパーの提出を求める。記載内容は、授業に対する感想やコメント・質問等である。なおリアクションペーパーの提出は成績評価とは独立したものである。

### 課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

・確認テストの解説については原則として実施授業回において行う予定である。  
 ・リアクションペーパーに記載された質問、当該授業回に関する要望（再度の説明や関連内容に関する説明の要望）に対しては、次回授業時に受講生全体に対して返答する。

### 評価の基準

授業内での確認テスト（50％）と最終レポート課題（50％）によって総合的に評価を行う。なお授業内での確認テストは、授業2回目から前授業回の知識確認および復習として毎回行う予定である。

【注】  
 (a) 本授業の成績評価は上記のみに基づく。特定個人への追加課題や再テストなど、受講生の公平性を欠くような対応は断じて行わない。  
 (b) 成績評価の対象者は、授業の欠席回数が増加回数（3分の1未満の受講生のみである（学則第16条-2に準ずる））。授業全体で出席回数が一定に満たない場合（全15回の授業において出席が11回未満の場合）、確認テストや最終レポートの得点に関わらず、「放棄」となる。  
 (c) 上記（b）の通り、出席が成績評価の前提となるため、出席に関する不正行為は成績評価に関する不正行為（カンニング・剽窃等）と同義とみなし、出席に関する不正行為を行った受講生および関与した受講生は不正が確認された時点で本授業の成績評価を不可とする。

### 履修にあたっての注意・助言他

・必要に応じて教員の説明を自分でノートや資料にメモすることが求められる。  
 ・公的な大会や行事、思引きなどやむを得ない事情での授業欠席は、欠席届および証明書を提出することで、欠席扱いにならない場合がある（証明書がない場合や本人の不注意、欠席理由に正当性が認められない場合などは除く）。ただしその場合でも毎回実施する確認テストの補填等や代替課題は行わない。  
 ・心理学関連のゼミに所属している、または所属しようとしている学生にとっては、ゼミでの研究や卒業研究を行う上での必須知識であるため、履修を強く推奨する。  
 ・本授業をより理解する上では、前期開講科目の実験計画法、心理学実験基礎、後期開講科目の心理学実験演習の履修を強く推奨する。

### 教科書

・なるほど！心理学研究法.	三浦 麻子	北大路書房	2420	9784762829666
---------------	-------	-------	------	---------------

### 参考図書

・心理学研究法 補訂版.	高野 陽太郎・岡 隆	有斐閣	2420	9784641220867
・心理学研究法.	本多 明生・山本 浩輔・柴田 理瑛・北村 美穂	サイエンス社	2860	9784781915395
・リサーチ・クエスチョンの作り方 第3版.	福原 俊一	特定非営利活動法人健康医療評価研究機構	2200	9784903803241

### その他

別途資料を配布する場合がある。

### 授業計画

1. 心理学における研究：科学と実証
2. 心理学研究の基礎知識：概念的定義と操作的定義、信頼性と妥当性、相関と因果
3. 実験の論理・手続き
4. 先行研究の扱い方
5. 実験法（1）：実験の考え方、剰余変数と統制
6. 実験法（2）：要因計画、様々な実験法
7. 調査法（1）：調査法の特徴、実施方法
8. 調査法（2）：様々な調査法
9. 観察法：観察法の特徴と種類
10. 面接法：面接の構造、実験上の注意点
11. 心理学特有の測定上の問題
12. 記述統計：尺度水準、代表値と散布度、相関
13. 推測統計：母集団と標本、無作為抽出、統計的仮説検定
14. 研究倫理
15. まとめ

### 授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

### 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

- ・教科書や自作ノートを確認し、用語の意味や理論を自らが説明できるようにしておくこと（各回につき60分）
- ・授業で得た知識から、日常生活における様々な人の行動や心に関わる現象をどのようにすれば適切に測定・検討できるのか説明できるようにしておくこと（各回につき90分）
- ・参考文献をはじめとした授業に関連する書籍や論文を図書館やインターネット上から自ら見つけだし、熟読すること（各回につき90分）

### 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

人間社会学科共通ディプロマシーポリシー  
 (1) 社会の仕組みや働き、日常生活と文化、人々の心理など、現実社会の様々なテーマに取り組み、よりよい人間社会を創造することができる。社会および人の心理を理解する上では、実証研究を実施し、その結果から考察・理解することも必要となる。そのため、目標 - の達成はこのディプロマシーの達成に貢献している。  
 (2) 統計調査やフィールドワークなどの実証的な調査研究の方法、コミュニケーション能力を身に付け、それらを社会共創活動、ビジネス、援助に実践的に活用することができる。本授業は統計調査や実証的研究の方法に関する基本的知識・技術を扱うものである。そのため、目標 - の達成はこのディプロマシーの達成に貢献している。

人間社会学科 心理コースディプロマシーポリシー  
 (1) 人間の精神機能と心理学の研究法に関する基礎的知識を有し、さまざまな場面に直面する人間の心理と行動を科学的に分析し予測することができる。人を対象とした研究を行う上では、参加者に対し、適切なコミュニケーションをとることが求められる。また消費者や援助を求める人物が何を求めているのかを知る上では、それを適切に把握するための手法や技法を習得していることが必要となる。そのため、目標 - の達成はこのディプロマシーの達成に貢献している。  
 (2) コミュニケーション能力と、消費者と援助を求める人の心理と行動の知識を有し、ビジネス場面と援助場面で心理学を応用することができる。人を対象とした研究を行う上では、参加者に対し、適切なコミュニケーションをとることが求められる。また消費者や援助を求める人物が何を求めているのかを知る上では、それを適切に把握するための手法や技法を習得していることが必要となる。そのため、目標 - の達成はこのディプロマシーの達成に貢献している。

### 双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

### 実務経験の有無及び活用

### 備考

・授業では教室PCを利用し、LMS（学習支援システム）であるCampus-XsやO11ce365などにアクセスすることがある。自身のID・パスワードを確認しておくこと。